

令和7年度 第3回 京田辺市立図書館協議会 会議要旨

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 令和7年度図書館利用状況・事業開催状況について

(事務局)

図書館日誌より、市内7小学校の社会見学が増えた。その後も、親子で一緒に図書館を利用された。夏休みには、図書館おすすめ本お楽しみ袋や平和図書展を実施した。9月には、京都橘大学キャリアゼミとして、1名受入れた。10月には、同志社大学と同志社女子大学の学生を1名ずつ実習生の受入れをしている。

4月から9月の貸出状況は、昨年より1万冊ほどの減少となっている。夏休み中は、日中は暑いので、午前中の涼しい時間帯や、夕方4時以降の利用が多かったと思う。事業実績としては、障がい者奉仕では、昨年度より少し利用が減った。郵送や宅配サービスの利用減少は、対象者が入院されたり、読むペース落ちたことが、原因となっている。

図書館の文化講座は、昨年度と同じく和綴じ講座3回で、延べ42名の参加だった。絵本の講座も開催している。女性の受講者だけでなく、男性の方も受講された。性別や年齢に関係なく多くの方に受講していただきたいと考えている。おはなし会では、ボランティア主催は順調、赤ちゃん向けおはなし会の人数が、集まりにくい状況である。12月には、書庫公開DAYを開催予定している。夏休み図書館おたのしみ袋は、毎年好評で、今回は、20袋増やして、70袋用意したが、初日にすべての袋がなくなっている状況である。返却スポットの返却冊数では、無印良品の店舗内の利用は伸びている。図書館年鑑2025では、同規模自治体では、貸出冊数は、4位、予約件数が、12位になっている。

(委員)

全国的な貸出冊数では、大体2010年からコロナの時期を除いた現在まで、大体3%から4%前後減っている。微減もしくは横ばいが、今も続いている状況である。京田辺市の状況も全国的な状況と同じようなもので、京田辺だけが減っているわけではない。

何らかの形で、図書館に対する利用を増やしていくことが望ましいと思う。

(委員)

本の修復の講座やイベントは、全国的に人気がある。和綴じ講座もタイムリー

に開催されていると思う。

(委員)

お楽しみ袋や本の修復をボランティアに依頼することで、図書館職員の負担が軽減されるのではないかと思う。

(事務局)

お楽しみ袋は、テーマに沿った本を選ぶことが難しいが、職員の勉強にもなっている。

(委員)

つながりをきちんと保って、多くの方々と一緒にやっていく環境というのは非常に重要で、貴重な財産だと思う。

(2) 京田辺市立図書館サービスアクションプラン（素案）について

前回の協議会や部内協議での意見のいただいたところを中心に説明を行った。フォントは、UDフォントに変更した。

(委員)

北部分室の場所は、アクセスしやすい立地と言えないと思うので、この文言を見直す方がいい。

(委員)

開館当時のままの図書館とは、想定された当時の役割のままの図書館という意味と思うが、少し分かりやすく言葉を足した方がいいと思う。

(委員)

従来の図書館で使用されている分類体系による配架方法でも探す人もいると思うので、そちらもしっかり残していただきたいと思う。

(委員)

継続的な職員の確保と新たな管理運営体制の職員という表現は、市職員と記載した方が分かりやすいと思う。

(委員)

アクションプランは、今後のこととを書くもので、5年後、10年後の市の人口がこのくらいになる。それに対応する冊数は、このくらいの冊数になると予測を書く方がよい。

現状分析の部分は、プラス面を書くべきと思う。貸出冊数が全国の同規模の自治体において、4位であるように、今の良い点を書き込まれないと、それを生かしていくような形の将来像に繋がらないので、良い点は書いていただく方がよい。

(委員)

本を取りたくなる演出の不足の部分は、開架の話と閉架の話とに分けて書く方がよい。蔵書全体の話と手に取りたくなる工夫というものを、開架の仕組みが

今どうなのが別途、分けて書くべきではないかと思う。

現状分析のイとウは、同じことが書いてある。何を書きたいのかを中心に書く方がよい。

(委員)

ミッションとビジョンの違いがよく分からない。ミッションでは、資料と場所の提供もしくは、資料と環境の提供にした方がよいと思う。

(委員)

書きすぎている部分が多い。資料の配置の細かな手法まで書くことはやめた方がよい。

(委員)

人と本がつながる仕掛けづくりの中の文章にも、配置の話が入っており、分離が十分できていない気がする。何らかの形で、情報収集について入れた方がよい。移動図書館は、入れておく方がよい。

(委員)

ハード面のリニューアルにおいては、検討でもいいが、図書館の中に置くべき施設は少なくともリストアップした方がよい

(委員)

継続的な職員の確保については、強調が弱い気がする。職員がいることによる継続性について、書き込んだ方がよい気がする。民間のメリットという話を強調するのは得策かどうか検討する方がいいと思う。どう影響するかも考えて書く方がよい。

(委員)

新たなサービスの機器について、ICタグやセルフ貸出機を例としているものは、もう古い。10年以内に図書館が必要なものを書く方がよい。

(委員)

全体的に、アクションプランそのものが、将来というものと細かいところとかが入り混じっている気がする。

(委員)

今から議論になるかもしれないが、ビジョンについてもう少しボリュームをつけてもいいと思う。

(委員)

サービスアクションプランなので、現状と将来予測というのは、欲しい。

(委員)

南部地域には、図書館がないので分室を設置してほしい。

(委員)

私の住んでいるところからは、新しい図書館は遠いが、すごく期待している。

おはなし会や図書館からの情報発信をどんどんしてほしい。

(委員)

市立図書館の使命（ミッショントリニティ）については、市民の生活を豊かにする資料と場所の提供がよいと思う。

(事務局)

ビジョンやミッショントリニティを複数書く方がいいのか。

(委員)

色々なケースがある。見た目と内容が、その図書館がどう考えているのかを反映しているものであればよいと思う。

(委員)

従来の方々をどれだけ、失望感をもたせずに同じように使っていただきながら、新しいことを書いていただいた方がより、今使っていらっしゃる方にも不安を持っていただかなくてやっていく方がよいと思う。

(委員)

アクションプランを実施していく予算はどうなるのか。

(事務局)

今回のサービスアクションに明記し策定することで、図書館として必要な予算要求につながるものと考えている。

(委員)

京田辺市が、5年後、10年後どういう街であって、どういう人口規模で子どもがどれくらいで、どういう年齢構成でどういう街か。仮想の姿があればそれに目指していくという話もいいのかと感じた。新しい図書館は、これまでの概念を打ち破るような、今までと違った図書館をアピールする方がいいと思う。新たなターゲットに向けたイベントの実施では、図書館を活用したくてもできない人、どういう方なのか、どういうサービスが考えられるのか。具体的な例も少しあればと思う。他部署との連携の話があればどんどん取り入れてほしいと思う。

(委員)

サービスアクションプランなので、こういうものを目指しますと大きく書いてもいいと思う。

（3）第3次子ども読書活動推進計画の策定について

令和2年3月策定から、5年間経ちますので、今年度末の予定で案を作りました。3章の構成になっている。第1章計画策定の趣旨、第2章読書活動の現状と課題、第3章には、読書活動の推進のための方策について、事務局から計画案に基づき説明をした。

(委員)

南山子どもセンターの「子」はひらがなの「こ」に訂正をお願いします。

(委員)

学校図書館 1 校に、1 名の司書の方を配置してほしい。常に図書室が開いている状況が望ましいと思う。

(委員)

学校図書館に学校司書が必要と加えて欲しい。様々な本に関するアクセスの仕方、繋がり方や京田辺市立図書館と学校図書館との連携の話も書いてほしいと思う。

(4) その他

- ・令和 7 年度第 3 回京田辺市議会定例会本会議の一般質問の報告を行った。
- ・第 2 回複合型公共施設整備基本計画検討懇話会に出席した原田会長から報告があった。

次回会議は、11月11日（火）午後3時から中央図書館 集会室